

平成 30 年 2 月 25 日

南の風特集号 FIBA ワールドカップ 2019

～ アジア地区 1 次予選 日本 VS チャイニーズ・タイペイ ～

南部ミニバスケットボール連盟
会 長 藤原 敬一

2月22日（木）に、横浜国際プールに於いて FIBA バスケットボールワールドカップ2019アジア地区予選 日本 VS チャイニーズ・タイペイの試合が行われました。2020年の東京オリンピックの出場が掛かる大事な大会となります。

日本はグループB（オーストラリア、フィリピン、チャイニーズ・タイペイ、日本）に所属しています。4チームによるリーグ戦で戦います。各2戦ずつ行います。（それぞれ国ごとにホーム、アウェイで1ゲームずつ）そしてグループBで3位に入れば、2次予選に進むことができます。

現在日本は2敗です。今回は地元（横浜国際プール）開催ということもあり、たいへん盛り上がりました。結果は皆さんご承知と思いますが、日本69-70チャイニーズ・タイペイで残念ながら敗れました。本当に、本当に惜しいゲームでした。振り返ってみます。

1Qの出だし、日本はペリメーターのシュートが決まらず得点が伸びません。チャイニーズ・タイペイは、果敢なドライブからのシュートで得点を重ねます。1Q終了時、11対17でチャイニーズ・タイペイがリードします。2Qに入ると日本の辻選手の3Pが立て続けに決まり流れを引き寄せます。ディフェンスリバウンドも確実に掴み2Qは24対12とダブルスコアで、前半トータル35対29で日本がリードします。

3Qに入り、チャイニーズ・タイペイのドライブイン、キックアウトからのシュートが決まり出します。一方の日本は比江島選手のペリメーターシュート、辻選手の3P以外が中々決まらず重たい流れとなります。3Qが終わり、49対51でチャイニーズ・タイペイが2点リードで最終Qに入ります。

4Qの序盤、日本は比江島選手、ブラウン選手の2Pシュート、辻選手の3Pで逆転します。チャイニーズ・タイペイは、ポストのデビス選手にボールを入れダブルチームが来ると、キックアウトからさらにエキストラパスでチャン選手にボールを回しシュートを決め再逆転します。日本はタイムアウトを取り、オフェンスの確認をして攻めますがシュートが決まらず得点に結びつきません。終盤チャイニーズ・タイペイが5点リードのところで、守りに入りオフェンスのリズムを崩し流れが日本に来ます。辻選手の3Pで得点を追いますが、後一步で逆転することができず、タイムアップとなります。

本当に悔しい、悔しい敗戦でした。（69対70）

振り返って見ます。日本の男子アカツキ・ファイブは前半、ディフェンス、特にボールマンディフェンスとディフェンスリバウンドを全員が頑張りました。過去2戦（フィリピン、オーストラリア）に比べてもよかったです。やるべきことの意味統一がきちんとしていました。惜しむらくは『**シュートの精度**』です。特にペリメーターの2Pの精度です。日本の確率は38%でした。チャイニーズ・タイペイは55%でした。また3Pは辻選手の8本は群を抜いていますが、他の選手は一本も決めることができませんでした。3Pを含めシュートの確率を上げなければなりません。シュートが決まらないと『**ディフェンスの頑張り**』は続かないと思います。**残りの3戦頑張り男子アカツキ・ファイブ!!!**